

アイヌ施策推進地域計画の中間目標と新型コロナウイルス感染症の影響等について

項目	R3 中間目標 (A)	R3 実績値 (B)	達成率 (B/A)	達成状況 (中間目標評価報告書)	新型コロナウイルス感染症の影響と今後の対応
体験交流事業 参加者数	150 人/年	52 人/年	35%	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部講座の開催を中止したことにより、目標値の達成には至らなかった。	アイヌ料理体験や刺しゅう、木彫りの制作体験など、参加者と市民が交流しながら体験する事業であり、緊急事態宣言等の発出中はイベントを中止せざるを得なかった。
文化体験講座 参加者数	240 人/年	68 人/年	28%	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部講座を中止としたことにより、目標値の達成には至らなかった。	体験型の講座であるため、リモートを主体とする事業とするのは困難であることから、感染対策の上で開催できる内容に工夫しながら実施していく。
アイヌ文化交流センター来館者数	58,000 人/年	13,243 人/年	23%	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、やむなく臨時休館期間(5月4日～7月12日、8月3日～9月30日)を設けたほか、一年を通して来館者が大幅に減少し、目標値の達成には至らなかった。	令和3年度は感染対策を最優先とし、市有施設全体として休館等の対応を実施しており、センターにおいても臨時休館を設けた。また、令和3年度上期に札幌を訪れた観光客は、コロナ禍前の令和元年度上期比で63.7%の減となるなど、市域全体で人流が大きく減少していた。 令和4年度は、感染対策を実施しながら開館するほか、引き続き、オンラインコンテンツ(バーチャルミュージアム、ポケット学芸員等)の提供等の取組を実施していく。
アイヌ民工芸品販売会購買者数	900 人/年	508 人/年	56%	新型コロナウイルス感染症の影響により、会場周辺(札幌駅前地下歩行空間)の人流が減少し、来場者数も減少したため、目標値の達成には至らなかった。	令和3年度は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間を避け、感染対策を講じながら7日間の販売会を3回開催したが、人流の減少の影響もあり、購買者数が伸び悩んだ。 令和4年度は、引き続き感染対策を実施しながら、販売場所及び開催回数を増やして販売会を開催する。
体験プログラム参加学校数	130 校/年	123 校/年	95%	新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成に至らなかったものの、参加学校数は前年度112校に比べて11校増加した。	アイヌ文化交流センターの臨時休館等の影響を大きく受けたが、感染対策が可能なプログラムに変更した上で、日程変更や臨時開館、出前形式への変更などを行ったことにより、コロナ禍においても多くの学校に利用してもらうことができた。 令和4年度も、引き続き感染対策を実施しながら、できる限り多くの学校に参加していただけるように柔軟に対応していく。